令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　湯川　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

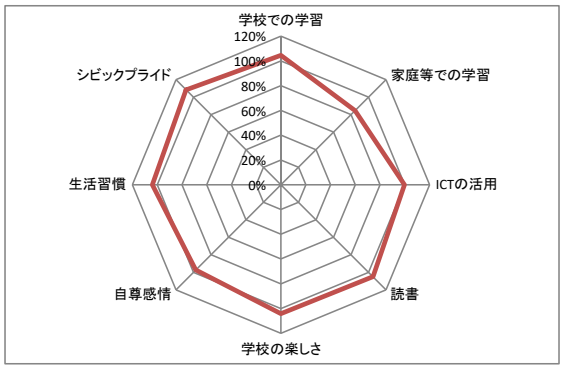
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的にみると、本校は全国平均を上回っている問題が数問あるが、下回っている問題も数問ある。ただし、全ての問題において、無回答率は全国平均よりも良い傾向にあり、最後まで諦めず問題に向き合うことができている。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかをみる問題は正答率が高く、無回答率も低かった。	
	努力が必要な問題	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる問題は正答率が低かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全体的にみると、本校は全国平均を下回っている問題が多い。ただし、全ての問題において、無回答率は全国平均よりも良い傾向にあり、最後まで諦めず問題に向き合うことができている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題の正答率が低かった。	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「学校の授業以外で勉強している時間」の問いに対して約４４％の児童が「１時間以上」と回答しており、全国平均を下回っている。
・「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じ時刻に起きている」の問いに対して約９２％の児童が肯定的に回答しており、基本的な生活習慣は身に付いている。
・「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の問いに対して約８３％の児童が肯定的に回答しており、シビックプライドの意識が身に付いている。
・「５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか」の問いに対して約９３％の児童が肯定的に回答しており、授業の中でもICTの活用が進んでいる。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

授業中におけるICTの活用頻度は増加しており、結果にも表れてきている。次の課題としては、ICTを活用するだけでなはなく、活用場面や活用方法の工夫を行い、より学習効果をあげるようにしていく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

家庭において基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。そのため、今後は家庭学習の内容を検討し、全学年で家庭学習時間の確保と質の向上を目指していく。